

「柔道整復師」の資格を活かし
アスリートを支えるトレーナーとして
スポーツに関わり活躍する人たちがいます。
第4回は、多くのフィギュアスケーターが通う
名古屋市中村区の『葵接骨院』の院長である
藤田のぞみさんにお話を伺いました。

スポーツ医学に憧れ 辿りついた柔道整復師

私が院長を務める「葵接骨院」では、フィギュアスケーターを支えるため、診療だけにとどまらず、さまざまなサポート活動に取り組んでいます。

私は小学生のころ、ある漫画がきっかけでスポーツ医学に興味を持ちました。調べると知り、まずは英語力をつけようと高校時代にアメリカへ留学。現地の高校を卒業後、東京にあったトレーナー専門学校へ進学しました。アメリカでスポーツ医学を学ばず帰国したのは、現地で資格を取得しても、日本ではあまり意味を持たないものだと知ったからです。

トレーナー専門学校時代、このままスポーツの世界へ進むか、それとも医療の道に進むかを悩んでいたところ、恩師にこういわれたのです。
「医学からスポーツを見ることはできるが、スポーツから医学を見ることはきつと難しい」



Nozomi Fujita 藤田のぞみ

高校時代にアメリカ留学を経験。東京のトレーナー専門学校を卒業後、接骨院にて勤務。その後、米田柔整専門学校に入学し、柔道整復師の資格を取得した後、スポーツ整形のある整形外科に勤務。2002年に「葵接骨院」として独立。現在はフィギュアスケーターからバレリーナ、舞台役者まで幅広く診療。6年前からフィギュアスケートを習っている。

幅広い知識と細やかなケアで フィギュアスケーターを支える。

この言葉をきっかけに、卒業後は接骨院への就職を決意。しかし、柔道整復師の資格のない私は、当たり前のように患者の体に触れることもできませんでした。自分で治療がしたいと思い、柔道整復師の資格を取るために、米田柔整専門学校に入学しました。

卒業後、スポーツ外科のある名古屋の整形外科に就職。1年半ほど勤務したところに、院長先生が独立を支援してくださいさるというので、思い切って独立したのです。

開業から4年が経ったころ、ひとりのフィギュアスケーターを診たことをきっかけに、口コミで広がりフィギュアスケーターの来院者が増えました。寄せられる相談に何かできないかと考え、メディカルトレーナーとしてとことん向き合おうと決めたのが、5年ほど前のことです。怪我をした選手を診療し、私が治療をするべきか、もしくは整形外科にお願いすべきかの判断をするという基本的な対応に加えて、怪我をしにくい身体づくりなどもアドバイスするようにになりました。通院されているフィギュアスケーターは小学校の高学年から中学生がメインなので、親御さんを対象に、選

手（お子さん）との関わり方や食事管理などの指導もしています。審美系のスポーツなので、体重が軽い方が飛べるのですが、だからといって太るのが嫌で食べないでいると、今度は痩せにくい身体になってしまいます。一週間分の食事を写真で送ってもらい、栄養バランスのアドバイスをしています。

ほかにもフィギュアスケーターのみなさんが抱える悩みを解決するために、メンタルや表現力など、それぞれの専門の講師をお呼びして、毎年1回バックアップセミナーを開催しています。様々な専門家があつまるチーム「チームあおい」を作り、所属クラブの分け隔てなく、フィギュア業界全体を支える存在を目指して活動しています。嬉しいのは、これまでの取り組みが、ここ数年でしっかりと結果に繋がってきていること。もちろん大きな大会に出られたとか、技ができるようになったということも嬉しいですが、その経験が子どもたちの人間形成に繋がっていくことが何よりのやりがいですね。

柔道整復師の可能性

柔道整復師の資格を持っていて良かったことは、まず独立開業ができたこと。そして国家資格なので、国内どこへ行っても信

頼してもらえます。それに、名古屋では米田柔整の出身だというのがすごく信頼に繋がるんですよ。当時、名古屋に来たばかりの私が、縁もゆかりもない中で独立開業できたのは、米田ブランドの力が大きいと思います。

柔道整復師という資格を持っていると、様々な世界が見えてきます。例えばスポーツに関わることで、怪我を治すだけではなくて、人間形成にまで関わることができるんです。また医療現場には最先端の技術や情報が入ってきますが、それがスポーツの現場に落ちてくるのにはやはり時間がかかるんですね。その最先端に触れられる、それを知ったうえでスポーツを考えられるという点でも、柔道整復師はとても優れた資格だと思っています。



■ 葵接骨院
〒453-0013 愛知県名古屋市中村区亀島2丁目12-27
TEL 050-3515-6297